

## 梗概

Fostering Virtuous Triangles:  
A Study of Peer Feedback for Scaffolding EFL Writing

9E12004

滝澤伊都子

近年従来の教師主導型授業ではなく、学習者同士の互助的活動を促す共同学習が英語教育の分野でも重要視されてきている (Dörnyei, 1997)。共同学習では同じ目的を達成するために学習者は協力し合い、その過程で学習動機や自己効力感を高め、論理的思考やコミュニケーション能力を伸ばすことができる (Dörnyei, 1997; Oxford, 1997)。しかし日本のライティング授業において共同学習の効果に関する知見はあまり定まっていない。本修士論文の目的は ①日本人英語学習者を対象にライティングにおいてどのようなピア・フィードバック (学生同士がコメントを付け合うこと) が行われているか、②ピア・フィードバックが学習者にどのような影響を与えているか、を明らかにすることである。

研究は予備研究と本研究から構成されている。まず予備研究 (2012年11月12日に実施) で収集したエントリー (学術的なレポート) に書かれた英語専攻女子大学生17名 (述べ32名) のコメント100個を分析し、Hyland and Hyland (2001) に基づいて10項目からなる分類表 (誤り訂正、一貫性、書き方の形式、内容が授業に関係があるもの、世間的な事象、個人的な体験、同意、称賛、質問、批判) を作成した。また質問紙 (9項目) 調査を実施した。本研究は予備研究とは異なる英語専攻女子大学生14名 (延べ73名) を対象に実施した。データは2013年5月21日から7月2日まで6回のエントリーを対象にコメントを収集し分類表に従って分析したが、どの分類にも当てはまらないものがあつたので、「どこにも属さない」を加えた。またエン

トリー No. 2 とエントリー No. 6 のピア・フィードバック直後に、ピア・フィードバックが学習者に与える影響を調査するために質問紙（17項目）調査を実施した。

分析の結果、6回のエントリーに付けられたコメント総数は639個で、一人平均8.75個のコメントを付けていたことになる。(1) 多かったコメントは、授業に関係があるもの、一貫性、称賛、(2) 少なかったコメントは、誤り訂正、批判、世間的な事象、質問であった。(3) ピア・フィードバックは学習者の気づきを増やし、モチベーションを上げ、責任感を育てた。(4) コメントの受け手としては視点が増え、モチベーションが上がった。(5) コメンテーターとしては友達に対して健全なライバル心が湧き、自分も頑張ろうと思った。またメタ認知的な見方が身に付き、ライティングに対する積極的な態度を伸ばした。(6) エントリーの書き手としてはコメントに励まされ、読みやすい文章を書こうと気をつけるようになった。(7) 学習者はピア・フィードバックは役に立っていると思っている。

ピア・フィードバックは学習者の情意面には貢献しているが、本心でコメントを付けているのか、またコメントをどの程度次回のライティングに取り入れライティング能力の向上につなげているのか、などは確認できておらず、今後さらに調査する必要がある。一方、教師にとってピア・フィードバックは時間と労力がかかる活動ではあるが、「学習者が中心の授業」を理解して実践する価値があると言える。